

## 陳述書

春日井市議会議員 長谷和哉

私は、2023年4月の春日井市議会選挙で3回目の当選を果たしました。私は初当選以来、会派には所属しておらず、無会派の議員です。第一回の当選前に自由民主党愛知県支部連合会政治塾の塾生になり、卒業したこともあり、初当選時に、自由民主党系の自由クラブに入会を申込みました。申込が無事終わった夕方、連絡があり、自由クラブへの入会はできませんと言われました。後で、聞いた話ですが、友松議員から、「長谷は1年生のくせに態度がでかいので、入れない」との一言で決まったそうです。入会申込時、私がでかい態度にしていたとは決して思いませんが、へりくだるのができない性格から、友松議員には、その様に映ったかも知れません。その後、無会派で自分なりに充実して活動をしている中、自由クラブのメンバーが、友松議員に常に忬度し、ご機嫌を取って、萎縮しているのを見て、あの時、入会していなくて良かったと思う様になってきました。2022年春頃、自由クラブのメンバーが友松議員に何も言えない状況を見かね、友松議員に「自由クラブは不自由クラブですね」と私が言いましたところ、友松議員が怒った顔で、「そんなことを言ってるから、お前の子どもが不自由になったんだ」と私の子どもの肢体不自由なことを言ってきました。

片目が不自由な長縄先生の土下座事件の時に友松議員が「がんちのくせに」と言ったと多くの議員から聞きました。又、2023年12月の議会で、足腰を悪くし松葉杖で出席していた安達保子議員に対し、友松議員が

「(自由クラブを脱会し、自分に楯突いた)罰があたったんだ」と多くの議員の前で本人に言い放ちました。この様に、友松議員はハンディキャップを持った本人や家族へのいたわりや思いやりの気持ちを全く持ち合わせない人だと感じました。

今回、裁判を傍聴したり、判決を見たりして、感じたことを以下に述べさせてもらいます。

( 議会報編集委員会の委員を市議会内で最も長く、年数も多く務めた私から見て、今回の裁判の一つのポイントである、奥村議員の議会報原稿の件ですが、議会報原稿の提出手続き上、奥村議員は全く問題が無いと思いますし、もし落ち度があるとすれば、委員会に一任された伊藤杏奈委員長が、本人直接でなく、会派に相談に行くという不可思議な動きが騒動の原因であると断言できます。議会報原稿は、原則、個人が内容の責任を持ち、明らかな誤り以外は、委員会から訂正の相談を個人にする程度で、個人が最終判断をするという決まりで長年来ました。更に、市当局との事前調整で、質問形式でなく、現時点では意見形式にして欲しいという市当局の要望を聞き、一般質問の内容で、意見を最後に言うことは、普通に行われていることから、被告側証人、陳述書(備忘録)の加納、金澤議員の原告攻撃は全く的外れで、被告に忖度していることが明らかであると思います。

令和 6年 5月 8日

住所: 春日井市小野町4丁目150番地35

氏名: 長谷 和哉  印